

フリガナ 氏名	ヒガシデ タダヒサ 東出 忠桐
企業・団体名	農研機構
所属 (企業・団体の)	野菜花き研究部門
役職	プロジェクトリーダー、ユニット長



略歴	平成4年より農林水産省野菜茶業試験場、農研機構近畿中国四国農業研究センターを経て、現在、農研機構野菜花き研究部門、施設野菜実証プロジェクトリーダー、野菜生産システム研究領域施設生産ユニット長。2007～2008年にはワーゲニンゲン UR 客員研究員として渡蘭。2010年に米国園芸学会より Outstanding Vegetable Publication Award を受賞。2019年に農研機構より NARO Prize を受賞。農林水産省・次世代施設園芸地域展開促進事業・次世代施設園芸検討専門委員会委員長、施設園芸技術者研修及び資格認定委員会委員、施設園芸・植物工場展 2020 実行委員等を務める。主な編著書に「Tomatoes: Cultivation, Varieties and Nutrition (Nova Publishers, USA)」、「Solanum lycopersicum Production, biochemistry and health benefits (Nova Publishers, USA)」等。
専門および得意な分野・研究	施設野菜の生理生態学
セミナータイトル	施設園芸・植物工場を先導する研究プロジェクト
セミナー概要	我が国の施設園芸では大幅な生産効率（面積当たり・労働時間当たりの生産量）の向上が課題である。生産効率の向上には環境制御装置の導入と利用技術の向上が重要であるが、設定項目の多さや複雑さから適切な設定は難しく、複合環境施設の導入は全施設面積の2.5%である。また、作業時間の記録や計画立案は通常、手作業で行うことが多く、自動化は進んでいない。そこで、これらの課題を解決するために、生育収量予測や作業管理システム等の研究開発が進められている。本講演では、現在進められている主な研究プロジェクトについて概要や進捗状況等を紹介する。
講演中のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模施設園芸、環境制御、労働生産性、収量増加</li> <li>・我が国の施設園芸の現状と課題を理解できる。</li> <li>・それらの課題を解決するための研究開発状況が理解できる。</li> <li>・研究開発の進展による将来の施設園芸像が理解できる。</li> </ul>
<u>本セミナーで習得できること</u>	野菜の生産・消費の基礎知識，研究開発に関する基礎知識，プロジェクト研究の概要